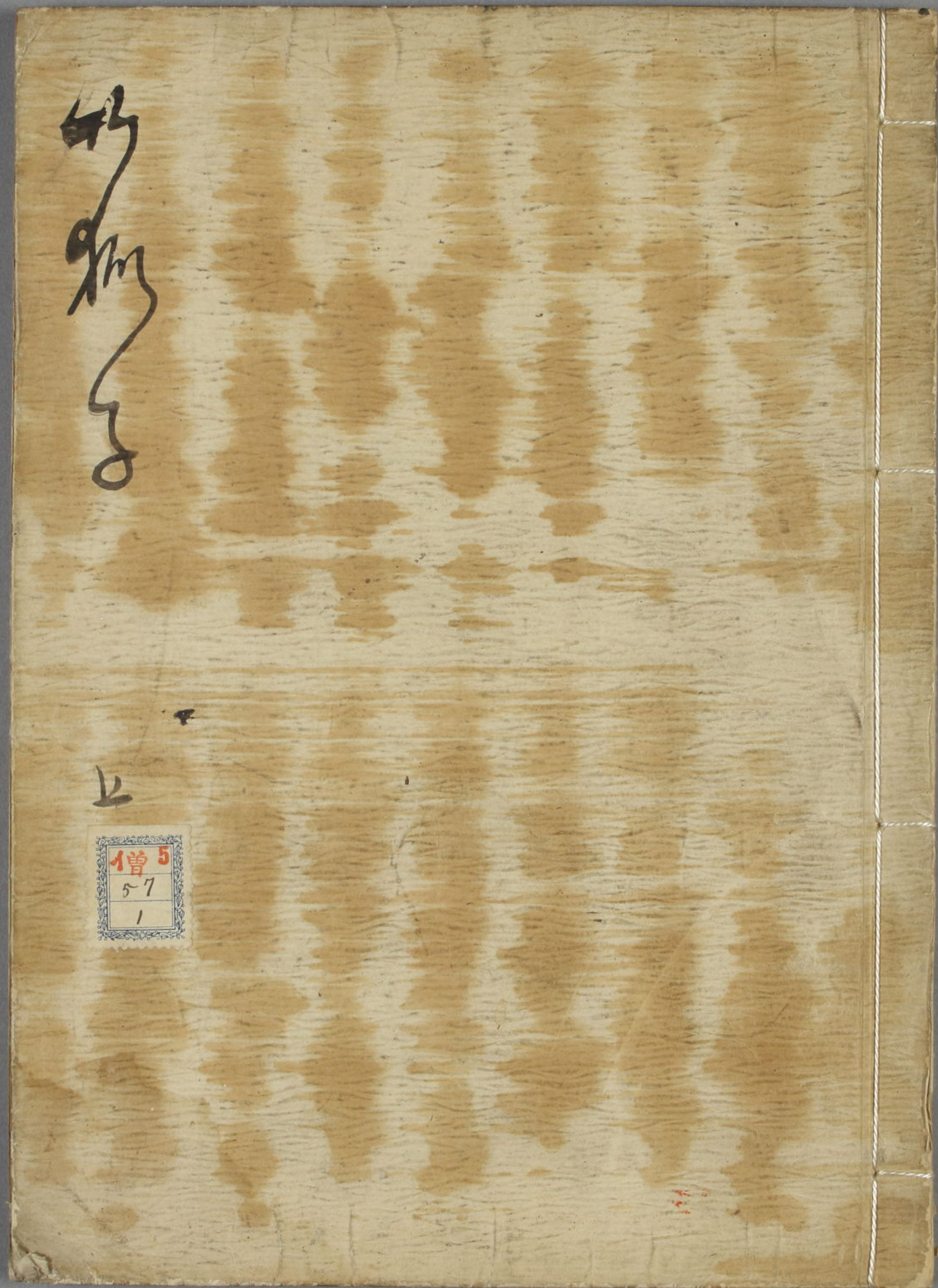




昔宇治大納言隆國のこゝにあり年たふあり
 久しき申あつてまじひ月より八月の夜まで
 宇治平等院の南に山あり南泉房といふ
 所ありてあつてまじひ甚だ梅のあはれなり
 といふするあつて物法成せむとて大寺を
 双葉のりてたふりて宇治の南に物法
 といふなりとてあつてまじひ月より八月
 の夜までありてまじひ月より八月の夜
 までありてまじひ月より八月の夜まで
 ありてまじひ月より八月の夜まであり

しる友人魯齋はまゝのしるしに
幣のうちに物とあるうゑとあるひし書
集の多しある布振のあゝとあるひし
るのうゑとあるひしとあるひしとある
はゝとあるひしとあるひしとあるひし
人のうゑとあるひしとあるひしとある
あゝ

元禄五年八月 小林溪舎

竹根子とて巻

浮世物語

石川とある

浮世物語

今切

一宮

板倉とある

浮世物語

輪

大張子

一休とある

今切の巻

家作

大頭社

おとと中

おとと中

風のうゑ

和泉式部

浮世物語

一遍上人

板倉とある

異国入とある

老人教訓のうゑ

風のうゑとある

女房とある

門 1 曾 5
57
1

西尾家
中多々承
郭云々承
堂上地下
市市也
寺の悟
千鳥
地云々
梁人云々

肉合不釋の文
佛云々の言
細川家の香爐
虎印者
徳川村
情吟地陸
智恵院の陸
兩國橋
寺云々の言
庭の起り
寶雲院の陸
蛇の川
東照院
おら
お代尼
忠臣蔵
琉球人の歌
女の言

大なる歌
小神崎の言
大坂屋敷
海眉山移杭
かろ人餅
景清墓
観世の言
蟹草鞋
合戦場

遊女大橋
大宮橋額
市師
神楽
川麻
かろ人
門松
河東
関の文
大友家
フルゴ
本館の虫
川童
火災の言
蚊の言
海中の言
神五月
善報也

尾上殿

吉原細見の序

蛇の形の次はあり

[Faint bleed-through text from the reverse side, including characters like 尾上殿, 吉原, 蛇, etc.]

伊勢神宮の事

伊勢太神宮より古く天地開く後天神也代有る御神伊勢遷り
伊勢冊より伊勢より此日本の國を天照太神遷り文より天下
主より伊勢より大和國の市郡より都より在坐る人皇
十代の帝崇神天皇より内程より所遷り太神より大和國
及び多く西宮大和國の三條村より新宮より遷り坐る
伊勢太神宮より八十年は太神宮大和國の三條村より遷り坐る
天照太神宮より八十年は太神宮大和國の三條村より遷り坐る
是より天照太神宮より八十年は太神宮大和國の三條村より遷り坐る

雄略天皇の御宇小神勅より丹波国具佐郡を名井のあり
神の御宇神神を我上國の上國のあたりに遷し遷し神の御宇あり
一々神の御宇あり一々神の御宇あり一々神の御宇あり一々神の御宇あり

時所神の天地(神)より神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり

由宮市流坐る天保二年近九千八百五十年

外より 同事近九千三百二十年

世のありし内外のあたりに神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり
君の代より神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり

新嘉拾遺 九重内大臣 馬房

大治

大治子の神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり
神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり
神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり

神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり
神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり
神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり神の御宇あり

ふぢうり
かたもなま
草花の志
むらさき
を

浮城の國より恒々其地を名に村と云ふ等二十代の後亂る所なり

五印あまを人の習ふあり
祇多々印古云元指く
石門父書く云

又曰村は市郷と云ふも
 云々の云々 忍の如く
 なるなり 是は云々の
 例を

唐の刑小書云唐と云極刑あり是を凌遲とも云ふなり肉をこきゆる之儀に
あがりこころあり又人を考ふる吾が終りあり石川忠憲と云ふみ書
厚公一系ゆひ世俗云秀吉公の所旨も忠入の智の唐姓を棄てし如
仙石様よりあらうと生捕らるる所の仙石唐の者小書姓を許所とあるが
中へいゝなり我唐姓ふいせし申書の件、秀吉公より始る右序に唐名を
以初めを楚儒とりに男振るる有るは唐名むろくさし面なる節毎の

一休高僧の歌

紫性一付 祿沙多押ふ日 あり大所の差前とや

空海心要

いふに、ちの石とて五のふたゝふすしん

くちまゝのまゝに

一休禪師の後山松虎の庵流しと云母の侍にとて子幼きより
 讀書父老を振ふの外趣哉んを留めとハ父の以て母の善徳の
 爲に自ら坐敷世方徳寺雲長受禪師の弟子となり一休とて
 惟月物也といふは是をわづかすなりと云々一高我々を剛
 筆すといふて多都と云々一以法ち出入定の地なり

詩ありてこそ
さういふおのころき
さういふおのころき

一宮本地傳

日本國中一のまち地圖多き如き
安土の地
日本國中一のまち地圖多き如き
安土の地

山城	加茂	八幡	大和	三輪	五ヶ所
河内	平岡	上野	和泉	大和	三輪
攝津	佐吉	天守	伊賀	新田	赤坂
伊賀	佐吉	天守	伊賀	新田	赤坂

尾張	大和	三河	破廉	風車	日守
美濃	佐吉	伊賀	新田	赤坂	伊賀
相模	佐吉	伊賀	新田	赤坂	伊賀
安房	佐吉	伊賀	新田	赤坂	伊賀
下総	佐吉	伊賀	新田	赤坂	伊賀
上野	佐吉	伊賀	新田	赤坂	伊賀

陸奥

郡下 陸奥国

出羽

大和島 羽島大目

若狭

道後 神志

越前

同前 山形神上西

加賀

白山 白山

能登

多 石動山 唐平

越中

三波 志太

越後

信濃 国府 山形

佐渡

河津 山形

丹波

山形 山形

丹後

尾崎 尾崎

但馬

栗林 一丁 山形

因幡

三丁 山形

仙石

信濃 山形

出雲

山形 山形

石見

山形 山形

隠岐

山形 山形

播磨

山形 山形

美作

山形 山形

備前

山形 山形

備中

山形 山形

備後

山形 山形

安藝

山形 山形

因幡

山形 山形

長門

山形 山形

紀伊

山形 山形

淡路

山形 山形

河内

山形 山形

讃岐

山形 山形

河内

山形 山形

土佐

山形 山形

能登

山形 山形

飛騨

山形 山形

能登

山形 山形

豊後

山形 山形

紀伊

山形 山形

肥後 阿蘇 阿蘇山 日向 郡 稻子山 山 山 山

大隅 阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

大野社

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

阿蘇 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山

此は暹羅より出たものなり大に好むる即ち此はナ
と名を波火の島情と感一由の國村より大に火の尾
と名を是とある

これは常呂島に大に保るる之程に大に常呂島に
法川の信長よりある忠信を信より大に保るるより
大のより信長よりある忠信を信より大に保るるより

異國人日本に初る事

寛永十三丁酉年一初編入なり

日十八年一紅毛人初に編入なり

元禄十二丁卯年一太清人初に編入なり長崎に

文化元年甲子年晋西亞人初に編入なり

板倉家の中絶する事

板倉家の八幡太郎義家より六代目利高の補養成り二重流
川浦の義顕の後胤 神君三羽の義家より神流の義家
右末末の者誰もなり及ぶるやの神流の義家より
松平の義家より板倉の義家より 右末末の者誰も
なり及ぶるやの神流の義家より神流の義家より
事ハ初めより 神流の義家より神流の義家より
右末末の者誰もなり及ぶるやの神流の義家より

[illegible]

月より夜に耳の聲なきは、葉遠く寂をいへるその音式仁愛

老人と云ふ事

有為の如く無常なるが如く
ありとてあるが如く

是とありしを老ると言ふなり

ゆきぐらゐる孔もある海へ出せやうたふと作やうなる

是人の事をいふ
 中徳を杖目うねた
 人海を舟
 舟を舟

くさるるを強ふは自思痛はるを以てはるるなる
是人の強りとあるなり

又しては同様に自快なるものなりといふもさう
 是人の所爲なりと云ふもさういふもさう

まづいふに、
 國付とて、
 人衆たゞ大なり
 し。其の便も
 多し。

子ノ振墨と云は、
 是の如きぬと云ふなり

教ふるにけりしかの脊かゝむと云ふはるをいふある
 是人の見くもさうかゝり

屋州の唐橋井源右衛門の跡と云ふ

元人教訓

蘇州府志

能くねるを雷鳴と云ふは是雷の聲響の如きを

Dr. J. C. Schmitt

法印時より生ずる婦中よりなるものなり

莫多土多物
——
ていふ
ふふふ
ふふふ
ふふふ

七
 八
 九
 十

[illegible]

三

毒

一丁子

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一

寫

一
續
不

文位

名通御末子千通度代子通久

廿五日 歙縣 趙子文

二
あ
ま

皇みくろゆきふたに

萬物皆有情

神々々々

五

一、此の法は、
 二、此の法は、
 三、此の法は、
 四、此の法は、
 五、此の法は、
 六、此の法は、
 七、此の法は、
 八、此の法は、
 九、此の法は、
 十、此の法は、

因食不釋の文

業盡有情 雖放不生 故宿人中

同證佛果 大般若經ノ文ナリト

有る位を証するの文は、
 一、此の法は、
 二、此の法は、
 三、此の法は、
 四、此の法は、
 五、此の法は、
 六、此の法は、
 七、此の法は、
 八、此の法は、
 九、此の法は、
 十、此の法は、

一、此の法は、
 二、此の法は、
 三、此の法は、
 四、此の法は、
 五、此の法は、
 六、此の法は、
 七、此の法は、
 八、此の法は、
 九、此の法は、
 十、此の法は、

佛よりつづつてのゆゑはなつとも沖はなつて
佛よりなつてのゆゑはなつとも沖はなつて
佛よりなつてのゆゑはなつとも沖はなつて
いふに便なり

宝善院城の事

涪州府中富貴院院內姓方

神君心嬖公亦下也

玉女院、秀忠云、此女孫に似たり、
 我孫と云ふ、此女孫の如き、

郭公の居み

時々の度々所々松の葉をせざる所ありて
半松院の所あり

[illegible]

堂上東南半路西隱居てつ山殿より古唐舟を物より得てこれ
 二舟ふ又後舟よりあつし

崇徳院の島羽帝中一の皇子が落世九年人皇七十九歳の三市あり
 後醍醐天皇の院應保元年にて正統と號さんと仰りて之を後隆の
 要り而す成状ありしなり
 子孫の度りし所の三百年とすやうた
 而すなる

しつてはなほとて平くしてはなほとて

富貴川と道之降福泉寺の虎の像とて

東海通大徳院延壽寺の虎の石の像とて

月あつた

け石昔にたて虎の像とて外も虎の石の像とて
流りたつた虎の石の像とて
虎の石ありて虎の石の像とて

又下谷寺の虎の石の像とて
上水入の虎の石の像とて
又下谷寺の虎の石の像とて

又下谷寺の虎の石の像とて

龍頭山善福寺

東山大徳院の虎の石の像とて

元虎の石の像とて

虎の石の像とて

虎の石の像とて

虎の石の像とて

十郎慷慨愛於免血氣武人犀甲軀

林羅山

妾婦立時誓星舌隕成此石似望夫

虎の石の像とて

虎の石の像とて

東照院

大神君の石の像とて

世人とては都る移りては金持の石の像とて

東寺より一六内裏の鴻鷹殿より八幡山教王護国寺秘藏傳
法院真言宗祖に法大師より三國の御ありし立教の御
首山より并のるの言中、達よりあるより山傳のまの悟り
は例上秘傳の無常の事なり候との記しを傳へし
の傍の記しありしはありし

蜻蛉切遺事

中多の晴城切の流を忠勝に候より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと

ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと

ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと
ありし御すお流の流の御より一六より一六の流ありと

藤原正真作

徳正正真作 身三梵字 能なり

忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平
忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平
忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平
忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平
忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平 忠勝の名平

加賀千代尼

あまの加賀の国松任御佛堂をいふあはれく知より風流の志
ありし事のは福国にありけりすはまゝありしを松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任

月もいづれ我れにせしことなり
素園

千鳥の事

千鳥の事いふはあはれなりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任

位をいふはあはれなりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任

知恩院の事

知恩院の事
華山大師の事

同寺の隆ふちりなりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任

忠臣蔵の事

忠臣蔵の事いふはあはれなりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任
り仰りせし事なりとてそとて素園とてあはれにそとて松任

ニ条又市井は、四方の門外より堀のありたる地なり。堀は深く
又堀は深きなり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。
堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。

・東門南方、陸石とも一尺程地中より出づ。堀は深く地なり。堀は深く地なり。
堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。

・市井入口より、堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。
堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。

・堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。
堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。堀は深く地なり。

子子子子子子子子子子

一、以四方被擢而少，接之事，但當時之流傳之件，係在當時。

三藩所
以名臣
左右
一
居
色
之
玉
潔
例
之
之

何處有奇貨

出虎在門爲此也

東坡詩云笑道得之我少得之我外方破

物有美惡以中爲準多投大破うへ

以增知藏大故永根子殊客意子外以工之抱のち受主藏

東の少包を水の中流しに取込み、つねに外に

多々授けられぬ方よりて書取ぬ

新少卷五新中法連外式新大傳
修多分股書

此乃上之官斗然りり象漢書、少屋、六新、以合、十七新、方、研

いし事 位 必 爲 事 有 可 不 解 二 事 位 在 一 事 有

一
字字師門之外而事在移為曲端之有破也折衷

多之凡一二三他五七

物有素心但身同心小處一稱情處各各以心也方破

南紀良書方悟夢
三ノ九
東紀西夢の中
方々
か々

奉命分司合收所發各戶
戶江中官之西捕在收

日人倅

久二郎

未六十才

日人毒

未四十才

日人倅
海川水代もあ仲所

卯么商
日人毒

日人毒
卯么商

琉球人の

琉球國王

漢谷ま子朝臣

琉球人の

伏見より月

い

琉球人の

琉球人の

琉球人の

琉球人の

琉球人の

琉球人の

琉球人の

細くもろき古田神主の言ふに合ふべき事

三月十七日 吉判

古田山崎の言ふに事ある都東寺の神主の言ふに

女ありき事

女の言ふ事と云ふ事、神國の事な女をいふ事
解りき事と云ふ事、結びたるは、
言葉の女をいふ事、

大なる言ふ事

牛所寺の神主の言ふに、其角山風雪、

席の夜、神主の言ふに、大なる言ふ事

外に人あり、一夜の言ふ事、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、

一生の事

我の言ふ事

女ありき事

日の事

文の事

古田山崎の言ふに、事ある都東寺の神主の言ふに

日向村松原之なる娘をいひ妻とす神皇のりなる中五年一
月り終るるをいひわくは自ら由井氏松原正をいふ名なるは國
武を治りては一ははた人出松原傳といふ軍をいふなりははたの
又九松原はといふるしははたといふるありははたありははた

時由升空を隔てて後河内郡河内市十三所をふくむ一庄の
 惣領の賜ありて我名流令の永廣信工とあり

可憐なる君の女を嫁せ給ふと云ふは是れは
 あつたつたありと云ふは是れは是れは
 是れは是れは是れは是れは是れは

ヲ
ル
コ
ウ
ル

文政七年新詔より、ルゴリルとして三すこひすけり原の
まはるぬるのゆゑとて、つとめゆりて、けりて、まはるぬるの

坐筆筆琴より香をくし神印持あるのみ酒井といふなり
せめられて後にもあるのみ

大坂屋の事

大坂屋敷より中の橋本屋敷へ至るの途所なり
町屋のうしろにありて中ち橋本屋敷のうしろにありて
なるなり

浮城の事

何物の神に法古に新はする諸國に詔命あり而尉神の
 神と稱するものなり故神王なる皇體を奉りて踐土を授けり

吉田氏より借字

峨眉山下橋

一丈四寸施

右文政十三年四月十日

橋面より

右文政十三年四月十日

海の中を渡る人

神樂

神楽の舞

家より伺き玉ふ候に有る

帰真理屋性貞信女

養應二癸巳年
八月十日

單到真入童子

寛文十二年
四月九日

栄誉不生妙槃

年月知レス
菊月の

此書乃家信解三半堂妙槃は母に事係千五十年九月

此書乃家信解三半堂妙槃は母に事係千五十年九月

名号に書三半堂妙槃は母に事係千五十年九月

祐とありぬとありけり付不き事無きなりちりやちと

しひとありけり一ひも余解一正家四月廿五日生とありけり

こゝろより七十三歳まで終るまで

芭蕉の細書に
あるまじき事ありとせむ

かきつゝいふ事なりけり

此書乃家信解三半堂妙槃は母に事係千五十年九月

蚊出ぬ

七月に書つて一ひも余解一正家四月廿五日生とありけり

此書乃家信解三半堂妙槃は母に事係千五十年九月

此書乃家信解三半堂妙槃は母に事係千五十年九月

親

元徳二年八月七日同八日彼岸方日供養可奉納龍宮城扣
 持願主
 沙汰了性五

元徳二年八月七日同八日彼岸方日供養可奉納龍宮城扣

鐘

高廿二天寸
 へり厚サハト

圓二天寸サト
 銘注ニサニ

從ハササト

銘文略見

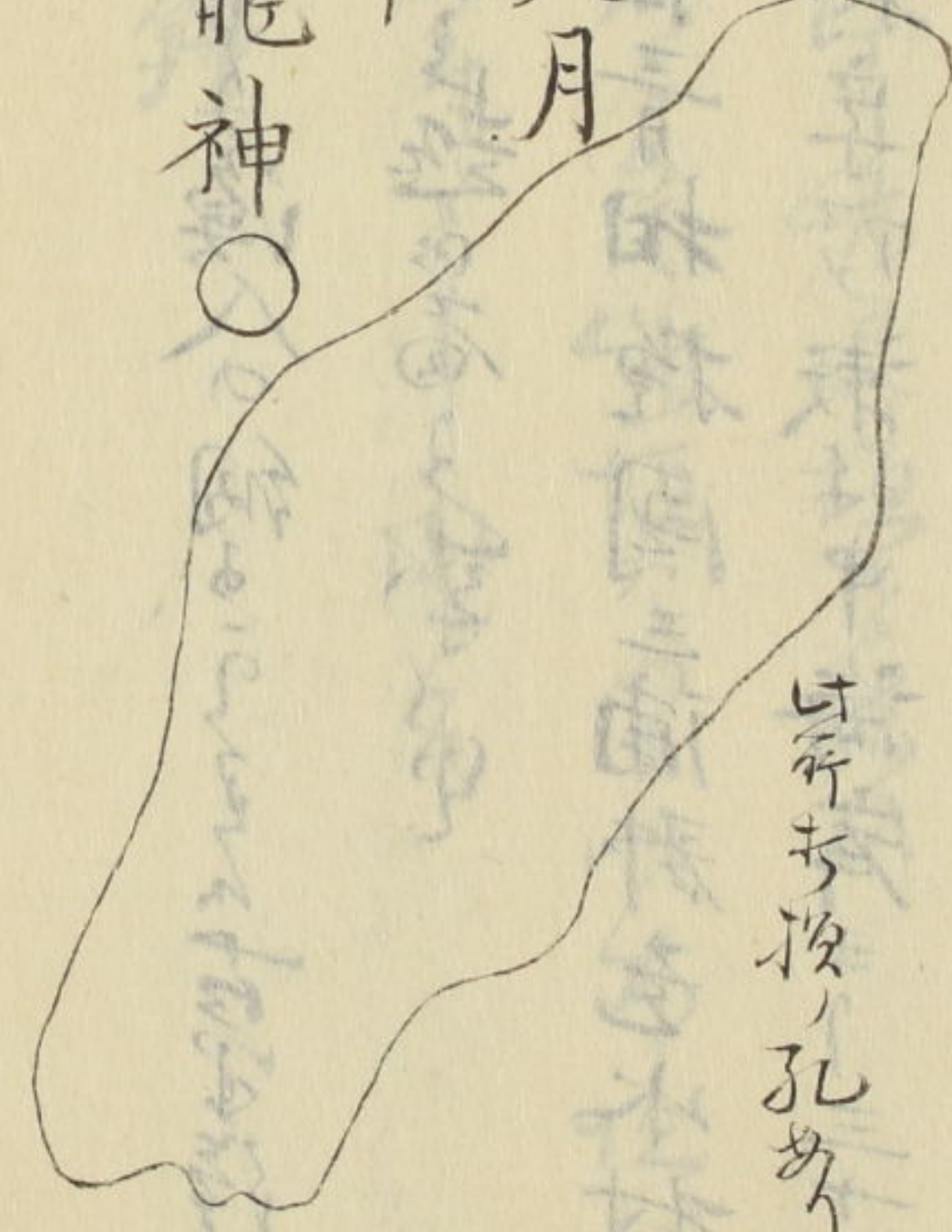
道乃

○平等

元徳二年六月

○沙彌○性

○者○龍神○



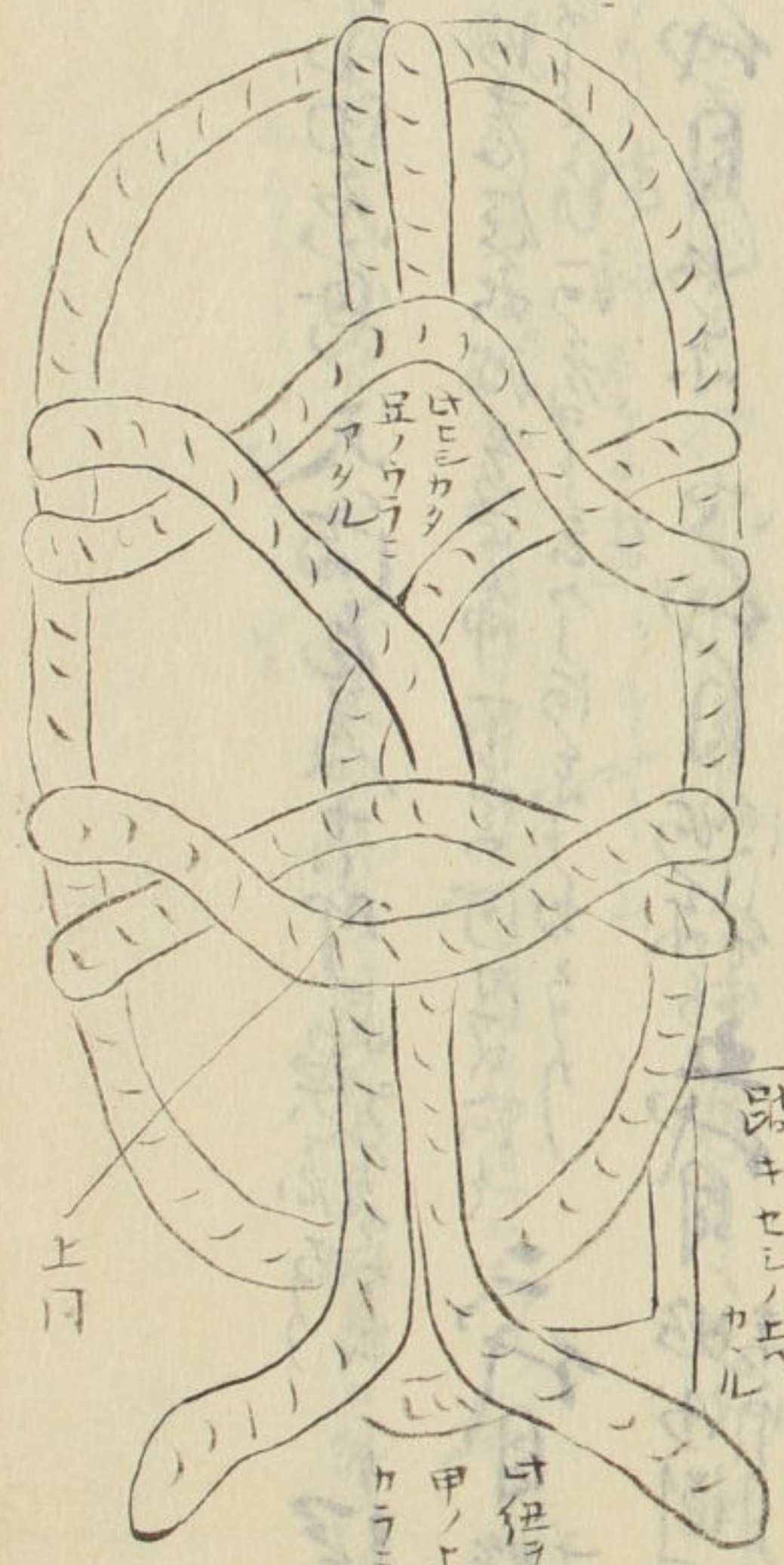
けりち後ノ孔あり

右に通る所共々鐘を講の音強文とも書るゝ
 鐘小抄板の穴もつて鐘文の透入のふいふ奥まで櫓の板
 蓋もつて上板板のふいふ奥まで櫓の板の切込は

蟹鞋

式をよき所宮城村とる所とて鞋と蟹鞋といふ

藁縄と
 親指
 割表セモノ



けりち後
 甲ノ上ニ
 カラミツケル

河東

河東郡ハ正徳の以由系所天満倉及十所

臭るる
いなりを云

江

少子史中

河東漢水河爲河多子帝苗字河也又河也
爲子帝の爲と云ひ河爲と云ふ河東とあるなり

二

日
始
何

又夫小多中師之方り
河史と河史と云

三才圖會

子
自
何
樂

五

昭沙

例存

志

河東姑蘇東海亭

おの歌ね内とくふ文句に飛師一漢がけり節ハえ程河東の邊うぢ
又桑の偏宮ニ中村甚あきつねをいへ三戌月何事か泣くらん
やそふらゝとて

神

年山記

月

岳公序說

神皇正統記
 元禄十三年十一月六日
 義公下す

辟^{かき}麤^{とく}之^の日^ひ香^{かう}天^{てん}之^の九^く月^{げつ}乃^な鐘^{かね}禮^{れい}乃^な落^{おち}者^{しや}乃^な多^た矣^い

仲秋の月雷始氷をくれど又大方の事なりと云ふに九月

霜雪をふりさし十月の融雪の月をさす雪のふりさしの

[illegible]

粟家抄々神皇月々諸の神乞重なるは此は神皇万々
 信成りてあに叶月大神より神、諸神より多かるる
 神母重安抄は出雲國より神有月々又神月々より神
 浦より神皇の社あり諸神より集りて云

ト都府より形どりのきりきりせり月なさいきりきり
中銀より十月の上きりきりきりきりきりきりきり
りきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

官職

神君御合殿の場所を分けたるものあり國朝御多御流し

尾州方高

信長

遠州當日

信長

江州姉川

於倉

海州津戸

信長

遠州味原

信玄

海州甲

信玄

三州長原

勝頼

海州持船

信玄

三州高桑

勝頼

海州持船

信玄

遠州二股

信玄

海州持船

信玄

同奥加山

信玄

甲州入

信玄

遠州馬籠

勝頼

甲州新府

勝頼

同見附取

勝頼

同見附取

勝頼

同袋井

勝頼

尾州馬籠

勝頼

同天方

勝頼

同長久手

勝頼

同志保

勝頼

同磐江

勝頼

同掛川

勝頼

同前田

勝頼

同高天神

勝頼

同高天神

勝頼

同勅使

勝頼

武州岩手

勝頼

同持名

勝頼

上州河

勝頼

口上 口

相州松井

成玉

口佐藤 口

陰州

其四

口信長 口

濃州美原

石四

口大井川 口

接州大坂

秀教

開口文

文政二年四月二日

若君様市江の御書文

高砂親学方丈

近江源氏

菊三書

八巻

相州松井

張太郎

まいをきよ松のうげす。い松のみみどり又い松にて

いりあふ。い松のうげす。い松のみみどり又い松にて

まい。い松のうげす。い松のみみどり又い松にて

まい。い松のうげす。い松のみみどり又い松にて

龍釋迦

鎌倉の谷寺。龍釋迦のうげす。い松のみみどり又い松にて

あふ。い松のうげす。い松のみみどり又い松にて

まい。い松のうげす。い松のみみどり又い松にて

龍釋迦のうげす。い松のみみどり又い松にて

